

令和2年度 一般会計予算 前年度比17億円減の203億円 財政再建への道のり険し

「小郡市緊急財政対策計画」「予算編成に係る削減プラン」に
基づき編成”市民生活への影響を懸念”

予算審査特別委員会（全議員）は、3月3日から6日及び19日の計5日間、令和2年度一般会計及び特別会計予算などの8議案の審査を行い、原案の通り全員賛成で可決しました。

令和2年度一般会計当初予算は、前年度比8・0%（17億円）減の203億1700万円。また、特別会計は、国民健康保険事業が1億9582万6千円の増、介護保険事業が1億6847万円の増など、合計3億3082万円の増となりました。一般・特別・公営企業会計を合わせた市全体では、15億8454万2千円の減となっています。

財政調整基金残高に不安

令和2年度の予算編成に当たっては、歳入不足を補うため、市の貯金に相当する「財政調整基金（注）」を約1億円取り崩すこととなっています。このため、基金残高は、概ね本市に必要とされる20億円を大きく下回る12億5千万円弱まで減少しま

した。
（注）突発的な災害や緊急を要する経費などに備えるための基金。

市民生活への影響を懸念

令和2年度の予算は、令和元年度に策定された「小郡市緊急財政対策計画」「予算編成に係る削減プラン」に基づく、歳入に見合った歳出を基本とし、それぞれの担当部に配分された『枠配分方式』により編成されています。そのため、配分された予算内に収めるよう削減された事業もあり、市民生活への影響が懸念されるので慎重な審査を行いました。

議員間で討論した主な事業

保育所待機児童の解消

これまで市も様々な施策を行い努力していますが、幼児教育・保育の無償化が実施されたこともあり、待機児童の増加は極めて深刻な状況です。この問題を解消するには、さら

にスピード感を持って、今ある施設をさらに改築・増築することによる受け入れ可能な人数を増やすことや保育士の確保が必要であるという意見が出されました。
本件については、市に対して意見書を提出しました。

【意見書】

本市は、保育所待機児童対策として保育施設の整備と保育士の確保に努力されてきたが、待機児童の増加は極めて深刻な状況であり、問題の解消には至っていない。
よって市は、早急に対機児童解消のため、更なる方策を講じること。

小規模校魅力化推進事業

オンライン英会話

子どもたちの満足度は約8割あったという説明を受けましたが、学校現場、家族、地域の意見はどうなのか、5時間という限られた時間でどれくらいの成果があったのか、しっかりとした検証がなされたのかなど

の意見が出されました。そのような中、令和2年度の計画では、各10時間の予算が計上されていますが、支障なく授業に組み込むことができるのか、また費用・時間・労力対効果の検証が必要であるとの意見が出されました。

本件については、市に対して意見書を提出しました。

【意見書】

小規模校魅力化推進事業のオンライン英会話については、検証が十分に行われていない中、更に時間数を増やし実施されようとしている。よって、本事業については、検証を的確に行い、学校現場の意見を十分に聴取した上で実施すること。

中心市街地活性化

基本計画策定事業

小郡駅周辺の活性化は、本市にとって重要な課題です。また、同時に策定が予定される立地適正化計画などの整合性も重要であり、今後、

多くの事業とともに長期にわたり予算が必要になってくるものと予想されます。このことから、相当な覚悟と情熱を持って、継続的に中心となり推進する人や組織を作ることが重要です。今後、随時議会に対する情報提供が必要だとの意見が出されました。また、計画は、実際に活性化に結び付けて初めて意味があるとの意見も出されました。

本件については、市に対して意見書を提出しました。

【意見書】

小郡駅周辺の活性化は本市にとって重要な課題であり、中心市街地活性化基本計画を策定・推進していくためには、事業に継続的に取組む人、組織が重要である。このことを強く認識して取組むこと。

運動器機能向上教室

教室参加者をタクシーで送迎していることについて、送迎が必要な参加者がどれくらいいるのか、タク

シーによる送迎が最適であるのか、参加費が無料というのは妥当か。またどれくらいの効果があったかなどの検証が不十分ではないかとの意見が出されました。

本件については、市に対して意見書を提出しました。

【意見書】

運動器機能向上教室については、参加者送迎の必要性等、再度、事業の成果及び費用対効果を含め検証を行い実施すること。

地域おこし協力隊事業

令和元年度の地域おこし協力隊発案で行ったスカイランタンなどの事業を令和2年度も継続するとの提案がありました。しかし、地域おこし協力隊は、新たな視点やアイデアで観光資源の発掘や、すでにある観光のブラッシュアップを行い、小郡の新たな観光事業を実施することが業務とされています。これに照らせば、令和2年度に隊員が交代する中、前

の事業を継続することは、隊員のやる気を削ぐのではないか、また活動の制約につながるのではないかとの意見がありました。その上で、隊員の活動に制約をかけすぎないこと、事業実施までしっかりとサポートを行い、最大の成果を生み出せるような環境づくりに留意して事業を実施するようにとの意見が出されました。

高齢者健康づくり（介護予防）ポイント事業

令和2年10月から試行予定ですが、事業の制度が十分に固まっていないため、事業が明確に決定され次第、議会に説明を行った後、事業を実施することとの意見が出されました。

所管事務調査

1月21日に保健福祉常任委員会の所管事務調査として、各保育所・園の見学をした後、小郡市保育協会の皆様と意見交換を行いました。

(調査内容)

保育所・園の現状と課題について

全国的な問題となっている保育士不足はもちろんのこと、障がい児加配保育に関しての意見が多く出ました。

保育士不足や待機児童の慢性化、配慮の必要な子どもが増加等、保育所等幼児の置かれている環境は厳しいのが現状です。人格形成に大切な時期の子どもの健全な環境づくりに、もっと力を入れるべきだと感じています。特に配慮の必要な子どものための巡回訪問支援事業の拡充は喫緊の課題です。保育士だけでは、発達障がいなのか、育ち過程の行動なのか、判断が難しいことも多いよう

です。早期発見のためにも巡回サービスや、支援機関の連携強化は今後さらに必要だと感じました。

委員会として、担当部署へ意見交換の全内容を伝え、課題の改善に向けて前進させてまいります。



議員研修会

2月18日に総務文教常任委員会の企画により、市役所にて研修会を行いました。

(研修テーマ)

「スマホ社会の落とし穴く子どもたちの育ちにどんな影響があるのか」

(講師) NPO子どもとメディア

代表理事 清川 輝基氏

スマホが社会に普及して、小学生も多く利用しています。保護者が育児の際に利用できるアプリも開発されています。子どもの成長にスマホがどのような影響を与えるのかについて、「NPO子どもとメディア」代表理事の清川輝基氏の講演を開き研修しました。スマホに子守りの手助けをもらうことが増えていきます。しかし、幼い頃からスマホの画面を見続けることによって、視力の低下、斜視など眼への悪影響があります。その上、親も子どももスマホばかり見ることで、親子の大事なふれあいの時間を奪われてしまいます。さらに、小学生・中学生になってスマホを長時間使用すると、体を動かさないことによる体力の低下や、夜使うことによる睡眠不足になり体内時計が狂うこともあります。また、SNSなどの使用で人と直接話す時間が減り、コミュニケーション能力が低下することや、長時間使用による脳へのダメージも指摘されました。スマホをはじめとするIT機器は便利なもので、今の生活に不可欠な

ものです。しかし、特に乳幼児から未成年までは、使い方や使用時間を間違えると様々な悪影響が出ますので、そこを大人がしっかりと理解し指導する。このことの重要さをその理由と共に再認識することができました。

新型コロナウイルス感染症に

関する対応について

4月7日に発出された国の「緊急事態宣言」を受け、8日に会派代表者を開催し、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた対応について市より説明を受けました。

同日、市民への広報・伝達について、また経済対策を含む市長の対応等について、議長から市長に対して申し入れをしております。